

Sの障害とお腹にある医療器具の説明

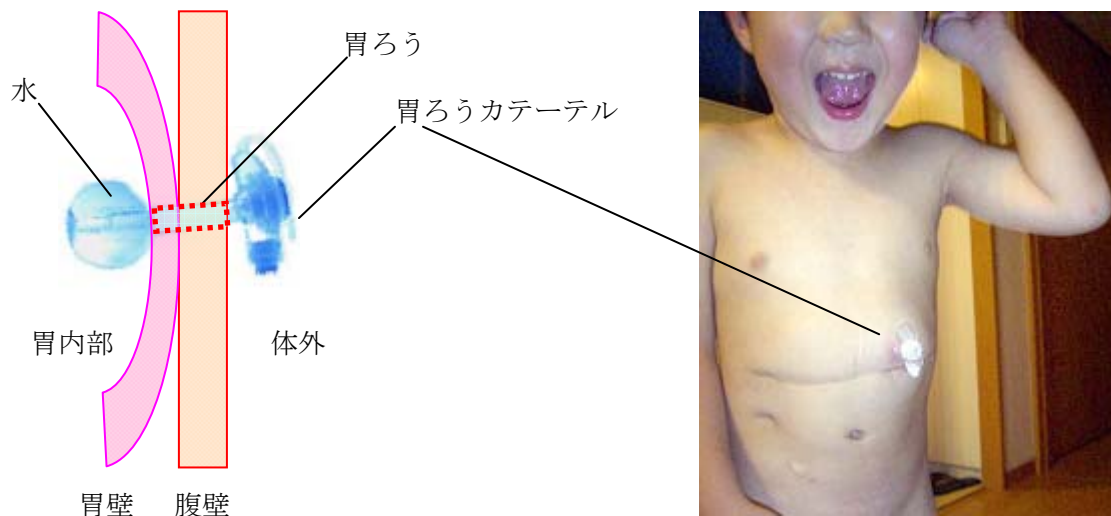
1. Sの障害について

Sは生後間もなく小腸が絡まり壊死してしまったため、広範囲に渡って小腸を切除されました。小腸は栄養を吸収する器官ですので消化吸収能力が十分ではなく(この状態を「短腸症候群」といいます)、後述致します「胃ろう」を介し、食事に加え栄養剤を服用していました。

現在は成長と共に残存小腸も強くなり、残った小腸のみで必要な栄養をまかなえています。時期を見てこの胃ろうカテーテルを終了する段階(恒久的に不要とする)にきていますが、担当医の指示待ちの状態です。

2. 胃ろうと胃ろうカテーテル

胃ろうは胃内部と腹部を貫通するトンネルです。そのトンネルが塞がらぬよう、ピアスのように入れておくのがお腹の医療器具「胃ろうカテーテル」です。胃内で風船状の小さな袋に水を注入して膨らまし、引っ張っても抜けないような構造になっています。体表には栄養剤を投与するための接続口があります。胃ろうカテーテルは左腹部に装着されています。



胃ろうカテーテルにつきましては、特にガーゼや消毒、投薬等の処置はありません。必要であれば本人が致します。またプール等を含め運動制限もありません。体外よりも体内の方が圧力が高く、通常胃ろうから胃に水や異物が入ることがないからです。万一何か異物が入っても、もともと胃は食道と口を通して外界につながっており、胃ろうから入ろうが口から入ろうが結局胃に到達することになり変わりありません。口からプールの水等を飲み込んでも健康を害さない事を考えると、胃ろうによる生活制限はないことをご理解頂けると幸いです。

3. 食事

消化吸収能力が低いため、過去厳しい食事制限がありました。現在も消化に負担が大きい脂肪と食物繊維、水分については状態に応じ控えねばなりません。また牛乳は乳糖が消化できませんので、飲むと下痢を起こしてしまいます。食事に関しては本人がよくわきまえておりますので、Sの判断を尊重して下さい。

4. トイレ

腸が短いと便の回数が多くなり、また便意を感じてから出るまでの時間が短くなる傾向になります。現在のところ便は1日1～2回、大抵は朝起床後の1回に治まっておりますが、その日の体調により頻回になる時もあるかもしれません。特に食事をすると胃腸の働きが活発になり、「押し出し」のように出ることがあります。幼稚園でも「失敗」はありませんでしたが、これからはより人目を気にするようになると思います。ご配慮頂きたいと存じます。

5. 緊急時の対処方法について

「胃ろうは口と同じ」と考えれば、胃ろうカテーテルが抜けたとしても、生命に係わるような重大な事態にはなりません。胃はもともと口と食道を通じ、外界に通じています。胃ろうカテーテルが引き抜かれても、大事に至る事はありません。胃ろうも口と同じ外界に通じる道だからです。そして実際これまでに何らかのトラブルが起こったこともありません。

しかしながら想定し得るトラブルとその対処法を以下に考えました。何れにせよ何らかの異常が見られた場合、連絡を頂ければ、速やかに迎えに伺います。

(1)引き抜き

しかしながら急激な力で引き抜かれますと、胃ろうが傷つき、多少の出血があるかもしれません。また穴は胃に繋がっているため、徐々に胃酸が染みだしてきます。親族到着まで、タオル等で圧迫しておいてください。引き抜かれた胃ろうカテーテルは廃棄せずに私共にお渡し下さい。

(2)圧迫

胃ろう造設のため、胃が腹壁（体表：お腹）近くに固定されています。そのため腹部を圧迫したり衝撃を与えると胃が刺激され、嘔気・嘔吐を起こす可能性があると考えられます。胃ろうカテーテル周辺に異常が見られない場合は、しばらく横にさせるなどして休ませてください。

(3)破損

急な引き抜きや衝撃により胃ろうカテーテルが破損した場合、破損個所によっては胃内の風船状の袋に満たされている水が抜け、カテーテルが抜けやすく

なっているかもしれません。処置は「引き抜き」に準じて下さい。

以上です。何れの場合にしろ、ご不明点や異常があればご連絡下さい。速やかに迎えに伺うなど、対処致します。

平成 22 年 4 月 15 日提出